

これ知っとう？

わが町の宝物 第11回

しんばるかいそん
新原開村400年



町指定文化財 武井家文書(町立歴史民俗資料館収蔵)

黒田長政の花押が書かれた命令書

時代は移り変わっても、守り続けていきたい自然・歴史・文化・人…
須恵町の大切な宝物をご紹介します。

須恵町の20行政区の一つ新原区が、今年4月25日で開村400年を迎えます。元和4年(1618年)当時の藩主黒田長政により、佐谷村と須恵村間の原野に開墾が命じられたという武井家文書(上記写真)が残っており、正確な日付が分かっています。関ヶ原の合戦直後だった事からも、歴史の古さがうかがえます。

そこで今年5月に、これを祝う事業が新原区の有志により計画されています。内容は記念碑の建立、記念誌の発行、歴史資料の展示及び記念講演で、コンセプトは①先人に感謝し、一層の発展を願う。②区民たる喜びと誇りを持つ。③これを記録に残し、将来に向けての町づくりに寄与する。としています。



母里 渉さん(新原区)にお話を伺いました。



また当該区では、廃仏毀釈を逃れた仏像を祀る(地藏祭)7月の二十三夜祭や、8月15日の盆綱引きなどの歴史的と言える行事も続いています。

さらには、明治21年以来昭和39年に至る76年間、海軍の予備炭山(後の旧国鉄志免鉱業所)とする燃料供給にも良質の石炭が産出された事から国の近代化の一翼を担ってきました。

記念事業の詳細は、これから決まる事になります。この歴史的イベントを共有してはいかがでしょうか？
※二十三夜祭は189号に、海軍炭鉱は197号に詳しく掲載しています。



二十三夜祭



海軍炭鉱

新原開村400年記念式典

平成30年5月19日(土)

9時 受付

10時 記念講演

アザレアホール須恵にて

編集後記

今年、1618年(江戸時代前期)新原開村400年にあたる。1600年関ヶ原の戦い。1615年大阪夏の陣で豊臣氏滅亡。翌年には徳川家康死去。やっつ、平穏な日々が訪れた時期である。

武井家文書(開墾命令書)には、黒田長政の花押がある。花押とは、署名の代わりに書いた一種の記号、書判(かきはん)である。花押は判を加える(かき)言い、印鑑は判を押す(おす)と言っ。おそらくこの花押も、長政の自筆であろう。

花押の始まりは、平安時代。戦国時代、織田信長は「麟」、伊達政宗は鳥「セキレイ」を圖案化した花押だ。黒田長政は、ローマ字を使った印章「KURO NGMS」をもちいている。

400年前と聞いて始めはピンとこなかったが、編集をとおして歴史を紐解き、なんとなく時代背景が見えてきて楽しく編集活動ができた。今年も、読みやすい広報紙になるよう努力していきたい。

今村桂子

発行責任者

議長：三角 良人

広報特別委員会

委員長：今村 桂子

副委員長：白水 勝元

委員：合屋 伸好

委員：三角 栄重

